

「日々の理科」(第 2842 号) 2022, -5, 18  
～ 春の小石川植物園 ～  
「すこやか ふれあいウォーキング (7)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小石川植物園は「公園」ではない。本来は東京大学の植物学や分類学の研究施設である。従って、飲酒、喫煙はもちろん、遊具で遊ぶこと、走り回ることも禁止されている。更に「落ち葉 1 枚」に至るまで、一切の採取が禁止されている。国立公園並みの厳しさと言える。要するに「植物の観察をする」ということを目的とした活動を計画し、1 年生といえども、あらかじめしっかり指導しておかなければいけない。



この「ハマナス (バラ科)」も、武蔵野台地には本来自生しない灌木だ。子どもたちは直感的に「バラに似てる、トゲもある」と言っていた。なかなか良い観察眼である。



残り 30 分を切った頃から、すべてのチェックポイントを終えた子どもたちが、ゴールに戻り始めた。疲れてはいるが、満足そうな表情だ。



ゴールでは、各担任から「賞シール」を貼ってもらえる。シールにはあらかじめ児童氏名が印刷されている。残ったシールを見れば「誰が戻ってきてないか」名簿がなくても、一目瞭然という仕組みにしたのだ。



全員が戻ってきたところで、学年主任から「がんばりましたね!」「ではお弁当にしましょう」「その前にさようならをして解散にします」という話があった。



解散後には、思い思いの場所で親子で昼食になった。団体入場でも、解散後には園内で自由に過ごせる(ただし、一旦退園すると再入場はできない)。午後にもう一度興味のある場所を歩く親子も多かった。初めての遠足は、天気も良く、きっと 1 年生にも保護者の方にも、思いでの一日になったことだろう。